2008年4月25日発行
第1巻　第2号
2008年5月号

ナショナル
ジオグラジャップ
日本版

NATIONAL GEOGRAJAP

食人クック・モーが絶滅の危機

妖精は実在する？

北アメリカ大陸に隠されていたパラミータ文明

アメリカ・ネバダ州に
隠されていた超古代文明の
謎が解き明かされる

AGUADION (PENDANT) ¥55,100
AGUADURA (RING) ¥38,000
パラミータのペンダントとリングに使われている『ラブラドライト』という石の放つ冷光は、
銀河系の他の惑星から、地球上でこの鉱物を持つ人に発せられた情報だと言われ、
それは洞察力にて認識されます。
また、月, 太陽を象徴し信念を貫けるよう導く力が有るとも言われています。
THE PLANET PARAMITA
遥か古か、未来の果てか。
Jap

食人クック・モーが絶滅の危機

右の写真は 2002 年に撮影された食人族クック・モーの最後の戦士をナショナルジオグラジャップのカメラマンが撮影したもの。あれからわずか 6 年しか経っていないが、クック・モーたちは今、絶滅の危機に瀕している。幻の種族の撮影に成功したナショナルジオグラジャップだったが、この写真によって、食人族へ感心が高まり、彼らが住んでいた密林の奥地にまで観光客が押し寄せるようになり、それまで彼らには無縁だった疫病がもたらされてしまったのだ。また“食人”に対して間違った解釈をする者たちによる弾圧も多い。彼らは決して人を食べるわけではなく、食べることが何よりも好きな人間であるだけなのに………。

Photo by HISAYOSHI OSAWA

妖精は実在する？

最近、ロンドンの骨董店で発見されたと言われている妖精の写真。撮影されたのは今から100年ほど昔で、現在のようにＣＧで合成が簡単にできる時代のものではない。まだその真偽のほどは確かではないが、もし合成であったとしても、すばらしい情熱によって創り出された名作だ。

読者の皆様へ

●「ナショナル・ジオグラジャップ」の内容はすべて、架空のものです。実在する団体、個人とは一切関係ありません。

●「ナショナル・ジオグラジャップ」の内容の全部、または一部を無断で他のメディアに転載することを禁じます。著作権はすべてＪＡＰ工房に帰属します。

●参考文献：「日本文明の謎を解く」（清流出版刊）、「文字の起源と歴史」（創元社刊）、「消えた古代文明」（講談社刊）、「古代遺跡ミステリー」（教育社刊）、「超古代オーパーツＦＩＬＥ」（学習研究社刊）、「世界の宗教 101 の謎」（河出書房新社刊）

●Photo　Jap-Inc, Studio Zimp,Osiris Express (http://www.osiris-express.com/index.html)

ⒸJAP Inc.

jap 2008

ROCK SAVES THE EARTH

『ロックは地球を救えるか！？』

ROCK! LIVE! ALIVE!3

ＪＡＰ工房２５周年記念イベントの一環として始まった［ROCK SAVES THE EARTH / ROCK! LIVE! ALIVE!］。２年目にして、今回も、沢山のミュージシャンの賛同を得、［ROCK! LIVE! ALIVE!3］として３回目の開催となりました。

[ROCK! LIVE ALIVE!3] の収益金の一部は、WWF に寄付されます。

■6 月 6 日（金）6 時 OPEN ＠ 吉祥寺 PLANET K

「6.6.6 は悪魔の数字」

★夜の部 play 7:00〜11：00　★深夜の部 play 0:00〜

■参加ミュージシャン

●J.J.S.= 斉藤ミツヒロ x 松本慎二 x 工藤義弘 with 原田喧太 & そうる透

●時の黒猫

●EATER LUNCH

●PINK REVOLVER

●他、未定

Jap

NATIONAL GEOGRAJAP は ROCK SAVES THE EARTH を応援しています。

カタルーニャは
スペインではない。

スペインの観光地と言えば、世界遺産にも登録されているサグラダ・ファミリアがあるバルセロナが有名。しかしここは 1479 年にスペイン王国の一部になった土地で､20 世紀になっても内戦を起こし、2006 年にも住民投票で地方分権を拡大した。もちろんスペイン語も通用するが､「自分たちはスペイン人ではなくカタルーニャ人だ！」と主張する人々が多い地元社会に溶け込みたいのであれば、スペイン語とともに公用語となっているカタルーニャ語の習得は必須だ。

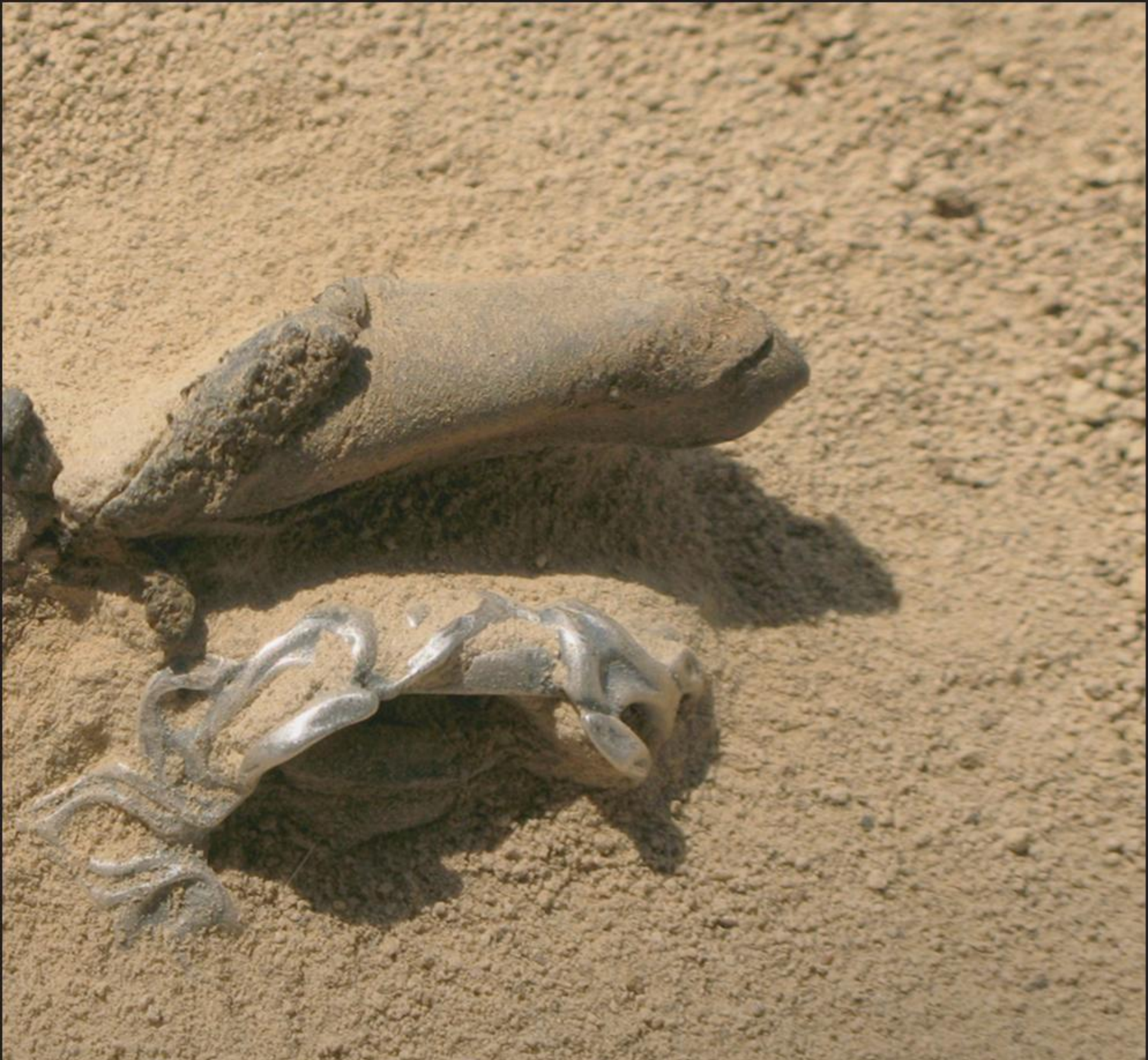
世界が注目する
小さなアトリエ

先日もある世界的に有名なロックアーティストの衣装を手がけたという小さなアトリエ。ここではミュージシャンの衣装だけでなく映画やテレビの造形物も数多く制作されている。だが、繁華街のビルの一室でハリウッドに匹敵する造形物が作られていることを知る人は少ない。

日本人と花見

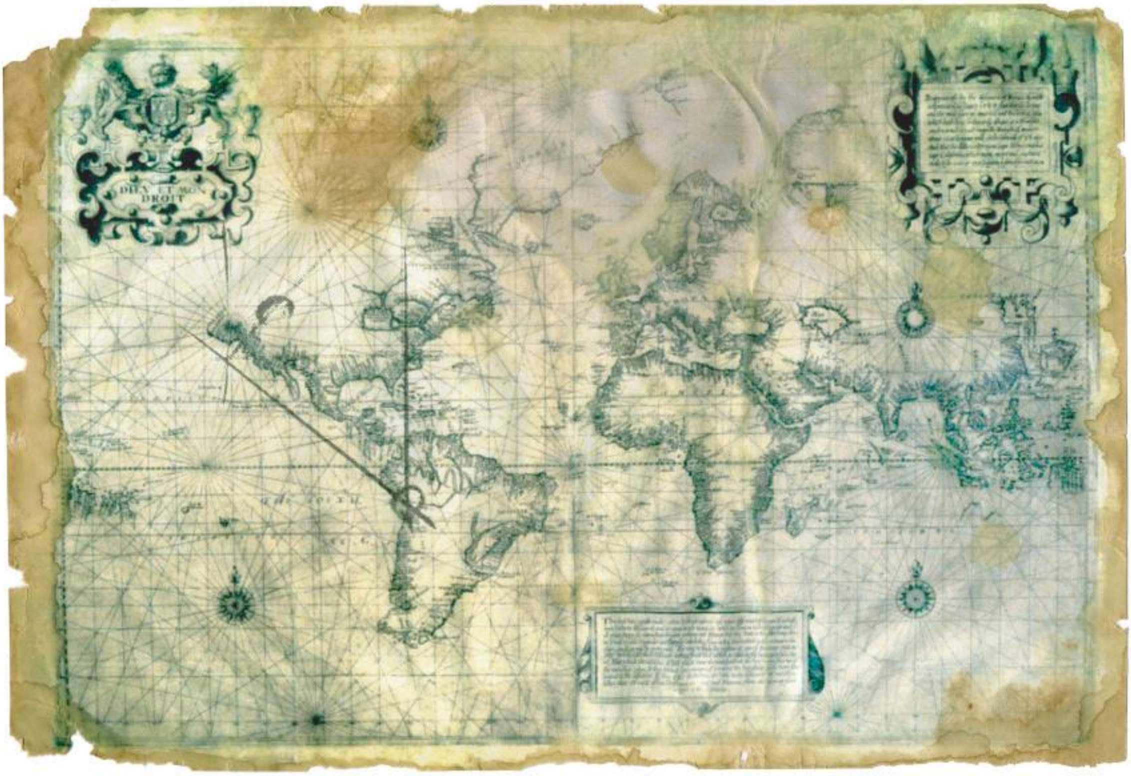
日本人にとって「花見」といえば桜。その中でも江戸時代末期に誕生したソメイヨシノは、明治以降日本全国に広まり桜の代名詞となっている。しかし意外にもソメイヨシノの起源については諸説があり、人工品種改良説と自然交雑説があり、はっきりしていない。桜の木の下で酒盛りをする人々にはどうでもいいことかもしれないが････。

北アメリカ大陸に隠されていたパラミータ文明

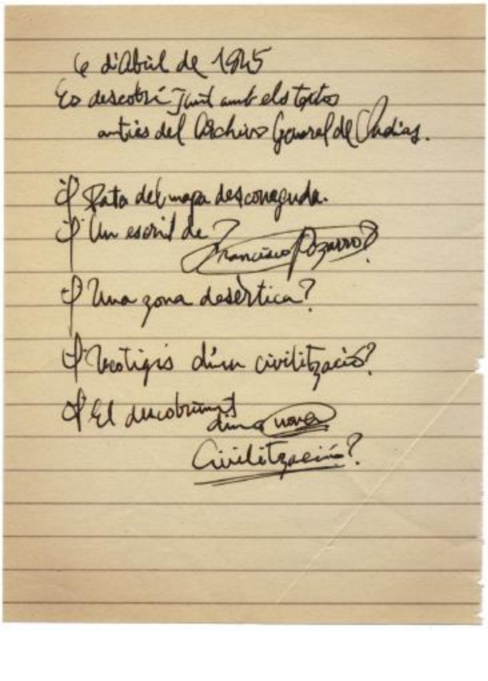


ネバダ砂漠で発掘された銀製装飾品。
銀の腐食がほとんどない。ピラミッド型の装飾は果たして何を意味しているのか？

150 年以上前の研究が、21 世紀になり
ようやく実を結ぼうとしている。
スペインの歴史家シウダッド・コンダルが存在を示唆した
パラミータ文明とおぼしき痕跡が北アメリカ大陸で発見されたのだ。
その痕跡がコンダル説のパラミータ文明だと断定するのは
まだ性急かもしれない。
だが、これまでの歴史の常識が覆されるのは時間の問題だ。



シウダッド・コンダルがセビリアのインディアス総合古文書館で見つけた世界地図。C・コンダルは地図の年代を突き止めることができなかったが、現在では 1590 年代の地図であることが分かっている。地図にはペルーから北米大陸に向かって線が引かれ、印が書き込まれている。



6 d'Abril de 1845
Es descobrí junt amb els textos
antics del Archivo General de Indias.

Data del mapa desconeguda.
Un escrit de Francisco Pizarro?
Una zona desèrtica?
Vestigis d'una civilització?
El descobriment d'una nova civilització?

上の世界地図といっしょに見つかった
C・コンダルのメモ。
メモの内容は

1845 年、4月6日。インディアス総合
古文書館で古文書と一緒に発見。
地図の年代不明。
フランシスコ・ピサロの記述か？
砂漠地帯？
文明の痕跡？
新しい文明発見？

子孫が立証したコンダル説

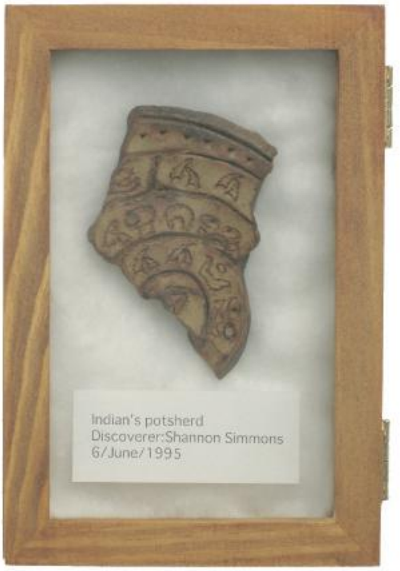
　1852年にそれまで知られていなかったある古代文明に関する研究論文を発表しようとしていたスペイン、カタルーニャ出身の歴史家シウダッド・コンダル（*Ciudad Condal*）。彼の論文は残念ながら終章の「El Planeta Paramita」だけを残しただけで闇に消えた。

　それから140年以上が経った1994年、シウダッド・コンダルの子孫である文化人類学者ユー・コンダル（*Yu Condal*）が、C・コンダルの研究物を発見した。研究所の火災事故で焼失したと思われていた古地図とメモの一部が見つかったのだ。

　古地図は現在では世界遺産に登録されているセビリアのインディアス総合古文書館で、C・コンダルが見つけたもので、1533年にスペイン人フランシスコ・ピサロがインカ帝国を征服した頃のもの。メモはカタルーニャ語で書かれていることから、それらを研究したC・コンダルの手によるものだと思われる。

「発見したシウダッドの研究物はごくわずかなものです。インディアス総合古文書館で数巻の古文書と古地図を見つけたことがシウダッドの断片的なメモから分かりましたが、研究に使われた古文書は見つかっていません。しかし、古地図が見つかったことは新たな古代文明の存在を唱えるコンダル説を解き明かすための大きな手がかりになりました」と、ユー・コンダルは言う。

　黄金を求めてインカ帝国を侵略したスペイン人がインカの人々から聞き出した未知の文明の場所を書き記した古地図は北アメリカ大陸のある場所を指し示していた。そこはネバダ州ラスベガスの郊外。ユー・コンダルはそこに何かがあると確信し、発掘研究チームの結成を呼びかけた。



ネバダの地元小学校に展示されていた粘土版の破片。

ネバダで発見された文明の痕跡

　2002年、ネバダ州ラスベガスの北、150キロにある農場脇で始まった発掘調査は、ユー・コンダルが所属していた日本の研究機関G-unit、スペインとペルーの考古学関係者による、日本、スペイン、ペルー合同発掘研究チームによって行われた。しかしシウダッド・コンダルが残した古地図から正確な発掘地点を割り出すのは簡単ではなかったはずだ。

「現在のラスベガスを中心に半径約150〜200キロの範囲内であることはシウダッドが手に入れていた古地図からおおよその見当がつきました。その範囲内で過去に遺跡や遺物の発見が報告された場所を探してみたんです。その結果、興味深い遺物が出土した地点がありました」と、ユー・コンダルは言う。

ラスベガス郊外にある小さな農園の脇で、7年前に10歳の少女によって粘土板の破片が発見されていたのだ。発見当時はありふれたネイティブ・アメリカンの遺物として扱われ、本格的な調査や遺物の年代測定も行われずに発見者が通っていた地元小学校に展示されていた。幸運だったのは遺物を発見したのが小学生で地方紙ながらも新聞に載り、学校で大切に保管されてきたことだった。もしも、遺物を発見したのが小学生でなければ、新聞に載ることも大切に保管されることもなく、ユー・コンダルが目にする機会もなかっただろう。

幸いにして見つけ出せたネバダの粘土版の破片は、合同発掘研究チームによって年代測定が行われたが、過去に放射線の影響を受けていることが判明し年代の算出はできなかった。

「この出土物の年代測定はできなかったのはたぶん地表にあったため、南西100 キロ先にあるネバダの核実験場

ネバダ砂漠の土中から発見された石組みの住居跡(左)。その中から見つかった銀製装飾品。年代測定の結果、紀元前1万年前のものであることがわかった(下)。

からの影響を受けてしまったのかも知れない。しかしこの粘土板の破片がネイティブ・アメリカンのものではないのは確かだ。粘土板に刻まれている文様は文字のようにも見える。断定はできないが、円盤形をした粘土板の一部のようだ。なぜこの貴重な出土物を本格的に調査しなかったのか不思議だね」と、チームを率いるペルーの考古学者ウロボン・イマカワック（*Urobon Imakawak*）は言う。

　年代は不明だったが発掘チームは粘土板の破片が発見された付近の本格的な発掘調査を開始した。そして砂漠の中から崩れた石組の住居跡を発見することに成功し、その内部から銀製の装飾品数点を見つけ出した。年代測定の結果､それらの遺物は紀元前１万2000年以上前のものであることがほぼ確定し、超古代に文明が存在したことは決定的なものになった。

「住居跡の年代測定の結果､紀元前１万2000年近くさかのぼる時代に人類がこの北アメリカ大陸に存在していたのは確かだ。そこから出土した銀製の装飾品はとても精巧で、１万4000年も土の中に埋まっていたとは思えないほど腐食が少ないのには驚いた。銀になにか別の金属が含有しているようだ。まだその金属がどんなものかは研究中だが、とても高度な文明が栄えていたはずだ」と、イマカワックは言う。

ピラミッド型の銀製装飾品は何を意味するのか？　イマカワックはピラミッドをモチーフにした装飾品の可能性も示唆した。もしそうだとすれば、今から１万5000年前にピラミッドが北アメリカ大陸に存在したことになり､古代エジプトでジェセル王が建造したとされる階段ピラミッドをさらに１万年近くさかのぼることになる。また、この銀製の装飾品の背面には記号または文字と思われる図形が刻まれているが、粘土板に刻まれた図形とも異なり、何を表すのかはまだ分かっていない。１万4000年もの間、土中に埋もれていても腐食しない銀を生み出した合成物とは何なのか？

　どちらにしても、北アメリカ大陸に古代文明があったことは確かなばかりか、このまま発掘を続ければピラミッドが現れる可能性も出てきた。はたしてここがC・コンダルの唱えたパラミータ文明発祥の地なのか？　今後の発掘と研究が待たれる。

発掘された銀製装飾品のレプリカ。(左)
大きなピラミッド形状のものと、円錐ピラミッド形状のものには裏に記号か文字のような図形が刻まれている。

NEXT ISSUE

「NATIONAL GEOGRAJAP 7月号」は、
6月下旬公開予定。
パラミータ文明のさらなる謎に迫ります。